

認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど

2020(令和2)年度活動・事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

《8つの柱の活動・事業の振り返り(まとめ)》**第1の柱 ー会員組織を強め、会員活動を豊かにするために****1. 会員のおさそい(拡大)が思うように進みませんでした。**

(1)利用会員は、計画通りにいかず、昨年の6割にとどまりました。コロナ禍のため、サービスの休止を行ない、入会を抑制したことによります。

(2)協力会員は、前年の2/3並にとどまりました。コロナ禍の影響がありますが、ボランティア説明会への参加が少なくなっており、募集方法など、抜本的な強化が求められています。

(3)入会実績

No.	種別	2019年度 入会数	2020年度 入会数	2019年度 期末在籍数	2020年度 期末在籍数
1	ふれあい会員(利用会員)	24	14	253	220
2	正会員(協力会員)	12	8	117	112
3	賛助会員	1		20	19
4	合計	37	22	390	351

2. 緊急事態宣言のため会員活動が十分にできませんでした。

(1)毎月の誕生会、恒例の敬老会・新年会、などの会員交流活動は感染拡大防止の観点から中止といたしました。

(2)誕生月に会員を招待して開催していた誕生会はできませんでした。毎月お祝いの誕生カードをお送りしました。コロナ禍で出かけられない中、「嬉しかった」とお礼の手紙やお電話をいただきました。

(3)会員研修活動として、新入会員研修会、運転者研修会を行いました。

第2の柱-たすけあい活動、運営への会員参加

1. たすけあい活動(有償ボランティア)は、コロナ禍の元、協力会員が減少

(1)ふれあいサービスは、利用会員増を抑制した結果、利用人数は、前年度比54%にとどまりました。コロナの影響は協力会員が家族の反対など様々な理由で活動継続することの難しさに現れました。生活援助サービスの担い手の離脱など(就職・病気など)の理由から、協力会員の活動時間数も53%に減少しました。

(2)利用会員入会は、ホームページ、市役所経由の依頼が月4～5件あったものの、困難事例であったりと現行の会員の対応にも十分に答えられない状況のため、お断りせざるを得ませんでした。

2. 高齢協力会員問題

(1)ふれあいサービスのうち移動サービスの主力が、75歳～79歳で42%を占め、70歳～74歳で40%、65歳～69歳 8%です。この割合はここ数年変わりません

(2)新規事業のデイサービス送迎をボランティア会員の協力でスムーズに行うことができました。

(3)移動サービスの定年を迎えた会員の次の活動を提案することが少しずつできました。

(4)ふれあいサービス

種類		2019実績	2020実績	前年対比
利用者数 (人)	移動サービス	887	501	64%
	生活援助サービス	266	124	47%
	合計	1153	625	54%
種類		2019実績	2020実績	前年対比
協力者数 (人)	移動サービス	288	204	71%
	生活援助サービス	179	82	46%
	合計	467	286	61%
時間数	移動サービス	3936	2187	56%
	生活援助サービス	1005	438	43%
	合計	4941	2625	53%

第3の柱 — 制度サービスは包括的視点の強化を図る

- (1) 訪問介護 — 昨年度少ないメンバーで頑張るとの力強い意見で継続しましたが、1年間で経験を積み見違えるほど成長しました。下半期に介護福祉士が1名入職し困難事例にも対応できるようになっています。また、月1回連絡会議を開催できました。
- (2) 居宅介護支援 — ケアマネージャーは1名の出入りがありました。通年4名の体制となりました。コロナの影響で利用控えもあり請求ベースで1人40件には至りませんでした。
- (3) ケアマネージャーは、週1回の連絡調整会議を持ち、インフォーマルサービスや障がい福祉サービスを積極的に取り入れたプランや、医療との連携がスムーズにできるようになってきました。また、更新研修にも積極的に参加し研鑽を積むことができました。
- (4) (障害福祉)計画相談支援 — プラン・モニタリング件数182と前年比143%。一人の担当者として目いっぱいやっています。

(制度サービス)

種別	提供時間数			利用人数		
	2019実績	2020実績	前年対比	2019実績	2020実績	前年対比
居宅介護支援				1861	1690	91%
訪問介護	2292	1819	79%	351	292	83%
相談支援				127	183	143%
合計	2292	1819	79%	2339	2164	92%

第4の柱 - ふれあいの居場所みんなんち活動

1. 2020年度はコロナ禍で、活動を新年度開始から6月までと、1月～2月末まで休止することになりましたが、再開後は待ち望んでくださっていた方々で毎回到ぎわっています。
2. 健康麻雀 本来は3～4卓対応できる広さですが、コロナ禍のため2卓で午前中のみとし、感染予防対策の強化にての参加をお願いしています。
3. 新しい事業のデイサービスとの一体的な運営を目指しましたが、コロナ感染予防の観点からデイサービスの休みの、火・木のみで開催となりました
4. 新しい講師による新講座が好評でした。

講座活動

No.	項目	
1	歌声喫茶(月1回)	22
2	ピアノで歌おう(月1回)	45
3	手芸教室(月1回)	27
4	折り紙教室(月1回)	40
5	オカリナ音楽サークル(月1回)	27
6	絵手紙教室(月1回)	30
7	映画鑑賞(月1回)	41
8	楽ちん！スマホ教室(月1回)	22
9	書道教室(週1回)	43
10	ネコサポデー(月1回)	19
11	健康マーじゃん(週1)	199
12	大正琴	6
13	歌の日	8
	合計	529名

5. 暮らしの保健室

- (1) 毎月第4木曜日を1日、「まつど暮らしの保健室」オープンデイとし、午前中は PT.(理学療法士)による「カラダのこと個別相談」、午後は認知症当事者や家族などが情報交換できる「認知症家族サポートサロン」を開催しました。
- (2) 11月には旭神経内科リハビリテーション病院 作業療法士賀曾利裕さんの勉強会、「高次脳機能障害をもっと知ろう」を開催することができました。会場のみみんなんちは人数制限をしZOOMにての参加も可能としたため、多数の参加がありました。
- (3) Mi-project との共同企画、月一企画はコロナの感染拡大により開催できませんでした。

6. 「えがお集まるみんなんち」

(1) 子ども食堂との協働による、「えがお集まるみんなんち」は年々地域の子どもだけでなく、赤ちゃん・子育て中ママパパ・高齢者などが楽しみに集まる多世代交流イベントになっていましたが、不特定多数の参加者に対応できないため開催を見送らざるをえませんでした。

第5の柱 - デイサービス運営を確立

- 1、22年間のたすけあい活動の実績をもとに6月から、ふれあいデイサービスるんるんをオープンすることができました。
- 2、運営コンセプトは「利用者も介護者もなんかほっとする居心地の良い」デイサービスです。
- 3、オープンに先立ち、3日間のスタッフ研修を都内のNPO 法人福祉コミュニティー大田の浜先生にお願いし、ZOOMによる充実の講義を行い実践に生かすことができました。
- 4、長年協力関係にある旭神経内科リハビリテーション病院からの言語聴覚士とベテラン介護士の出向によりスムーズな運営開始につながりました。

デイサービス月別利用者数

	営業日	利用者数 延べ人数	送迎 件数	介護 スタッフ	調理 スタッフ
6月	17	106	126		
7月	18	129	113		
8月	18	134	120		
9月	17	139	139		
10月	18	136	137		
11月	17	130	137		
12月	16	124	136		
1月	16	123	132		
2月	16	126	116		
3月	18	146	150		
合計	171	1293	1306	449	304

【主な取り組み】

1. 6月1日 デイサービスるんるんオープン 旭神経内科リハビリテーション病院より佐藤雅子さんが出向にて1か月支援、土曜日は言語聴覚士の平山さんが支援して下さいました。
2. ボランティアさん・介護スタッフの車を使っての外出レクを実施しました。
6月の市立博物館をはじめ、ぶどう狩り、ショッピングモール、祖光院の彼岸花、東松戸ゆいの花公園など年7回外出しました。
3. 8月 るんるん夏祭りとして運転ボランティアさんの皆さんとともに開催。やきそば・フランクフルト・枝豆などお出しすることができました。また、縁日・盆踊りも実施。
4. 利用者とともに調理レクを実施。野菜を切るところから一緒に作りました。
5. 月1回の行事食を管理栄養士の協力のもと行いました。

第6の柱 -教育・研修活動の充実強化を図ります。

1. 福祉有償運送運転者講習会(元気シニアの活躍サポート研修会)を2回開催しました。

福祉・介護の人材養成事業として、福祉有償運送運転者講習会、元気シニアの活躍サポート研修会などを開催。28人を養成しました。

2. 会員を対象に、移動サービス運転者研修会を1回開催しました

毎年、年2回移動サービスにかかわる協力会員対象の運転者研修を行っていましたが、今年は1回のみ開催となりました。

第7の柱 - 東日本大震災被災者支援活動

1. 被災者が主体となったサロンの運営が軌道に(宮城県東松島市)

- (1) 宮城県東松島市被災者支援・交流活動として、牛網地区においてコミュニティサロン「東松島みんなんち」にて、サロン、百歳体操や裂き織り教室、を毎月開催(延べ137人参加)、地域コミュニティ再生に役立つ活動になっています。ふれあいネットまつどからは、運営の協力としてチラシ作成等行いました。
- (2) 今年はコロナにより他県への移動は控えなくてはならず、事務局・役員の派遣支援はできませんでした。
- (3) 2019年に開催した交流活動で1泊2日の宮城路交流旅行が好評だったため、今年度もコロナ感染が落ち着いたら交流できないかと模索しましたが、かないませんでした。

2. 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトの取り組み

千葉県東葛地域の広域避難者に対する支援活動を、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト事務局団体として、避難者交流サロン黄色いハンカチを拠点に取り組みました。活動の整理を図ることを目的に、2020年3月末で、事務局団体をおり、一会員団体になりました。

第8の柱 - 事務局機能の強化

1. 事務局スタッフの処遇改善を実施したが、引き続き世間相場との差を縮めるようにしていきたい。
2. 引き続き収益事業の抜本的拡大が課題です。